

小松電機と覚書調印

松江湖南テクノパーク

松江市が中心となって整備を進めていた松江湖南テクノパークへ小松電機産業(本社・八雲村、小松昭夫社長)が進出することになり二十九日、県庁で、県や松江市、玉湯町と覚書への調印式が行われた。同パークへ進出第一号。

調印式では、澄田知事が「人口定住は県政の最重要課題。その意味でも若者に

魅力ある雇用の場を提供することは不可欠と考えている。新工場の一日も早い操業を期待して「いま」と話し、県企業立地促進条例の誘致基準に適合するとした立地認定書を手渡した。

この後、澄田知事、宮岡寿雄・松江市長、新宮安雄・玉湯町長、小松社長の四人が、同条例に基づき三年以内に操業することなどを盛り込んだ覚書に調印した。

小松社長は「社員一同、力を合わせ、地域の人と共に、地方からグローバルに発展する一つのモデルになるようがんばりたい」と話した。小松電機は昭和四

十八年二月、創業。資本金は一億円で、高速シートシッターや上下水道遠方監視装置などの製造を手がけ、年商約三十五億円。新工場の敷地面積は約十一畝で、研究所(七階建て、約千八百平方メートル)や併設工場(二階建て、約六千平方メートル)など五棟を建設。来年十二月に創業を開始する予定。